

幼保小接続に向けた手引



広島市では、目指すべき人間像として「心身ともにたくましく、思いやりのある人」を掲げています。乳幼児期は、その土台を作る重要な時期であり、生涯にわたる人格形成の基礎が培われることから、幼児教育・保育の充実を図ることが必要になります。とりわけ、将来の学びにつなげていくためには、全ての子どもが円滑に小学校教育へ移行できるようにしていくことが大切です。

本市では、乳幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図るため、市立小学校の中から「幼保小連携実践研究校」（平成29年度～平成31年度）を指定して指導の在り方などについての実践研究を行ってきました。

この取組をもとに、幼稚園・保育園等と小学校の接続に向けた連携のポイントをまとめましたので、幼保小接続の参考にしていただきますようお願いします。

令和2年（2020年）3月
広島市乳幼児教育保育支援センター
（教育委員会事務局・こども未来局）

1 幼保小接続について

このリーフレットでは、次の3人がそれぞれの立場でコメントをします。

ワシは、接続に関するポイントを紹介するぞ。



接続博士

私は、園等の立場でコメントします。



保育者

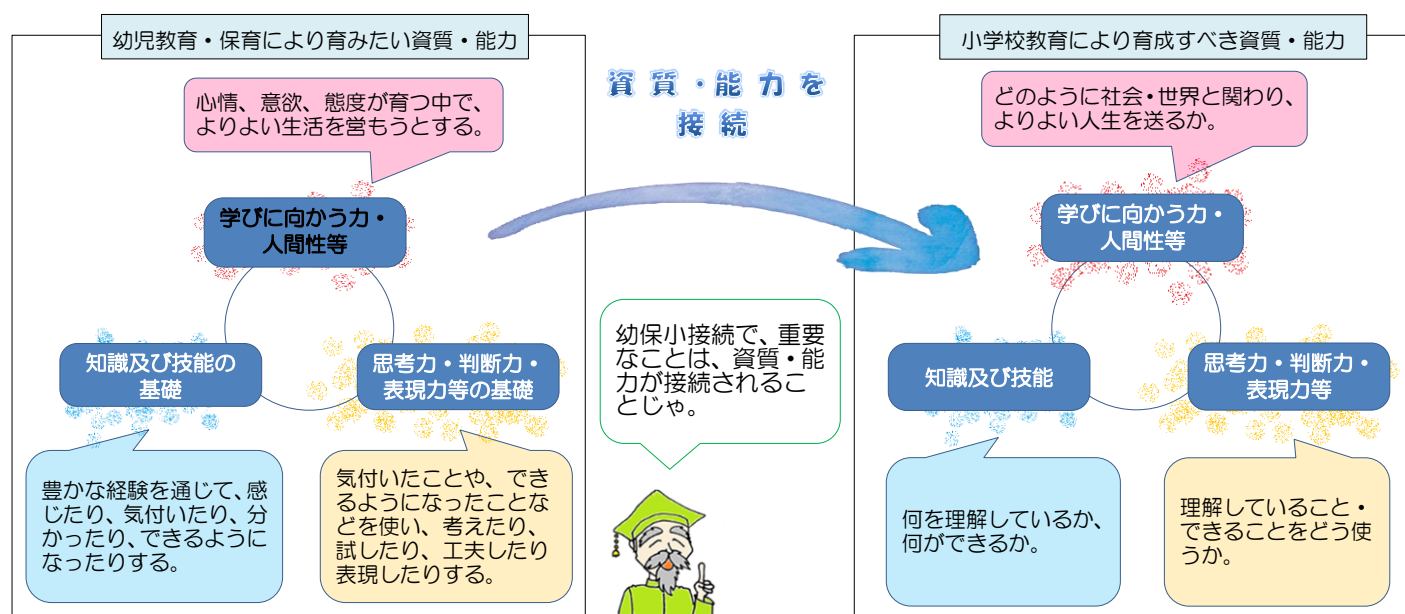
私は、小学校の立場でコメントします。



小学校の先生

幼保小接続ってなあに？ ～子どもが育ててきた資質・能力の受け渡し～

幼保小接続は、幼稚園・保育所・認定こども園等（以下、「園等」という。）において、子どもが育んだ力を小学校教育に円滑に接続することです。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下、「要領等」という。）に示されている「育みたい資質・能力」と小学校以降の学習指導要領に示されている「育成すべき資質・能力」を接続することが重要です。



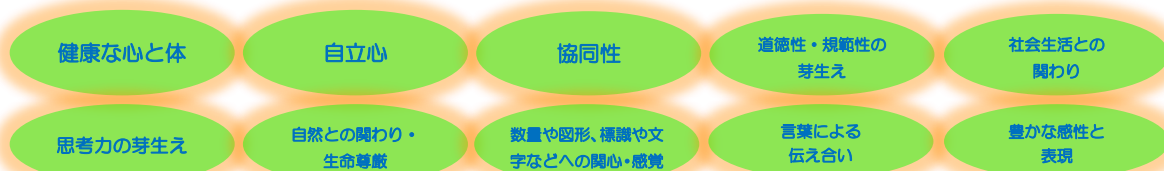
博士、資質・能力の接続には、何をすればいいの？

大切なことは、保育者と小学校の先生が互いの保育と教育を理解し合うことじゃ。互いの理解を深めるために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を手がかりにして“連携”をするとよいぞ。



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

幼児教育・保育のねらい及び内容等に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている園修了時※1・就学時※2の子どもの具体的な姿です。



※1 幼稚園教育要領の記載 ※2 保育所保育指針の記載



えっ！“接続”と“連携”は違うのですか？

そうじゃ、“連携”は“接続”に向けて園等と学校が行う取組じゃ。よい連携ができると、よりよい接続につながるのじゃ。



よし！次は“連携”の進め方について考えようかのう。




2 幼保小接続に向けた連携

(1) どのような取組をするといいの？ ～資質・能力を接続する3つの連携～

連携の内容や手順は、地域の実情等※1に応じて考えていくこととなりますが、ここでは基本的な連携の取組について3つのステップを示しています。

効果的な連携にするには、園等や学校の実情に合ったものにするのが大切じゃ。そのために、保育者や小学校の先生の工夫が必要になるぞ。



【ステップ1】情報の連携	【ステップ2】人の連携	【ステップ3】カリキュラムの連携
<p>① 在園中に、保育者と小学校の先生が入学を予定している子どもの様子等について情報を交換する。</p>  <p>② 園等と小学校が互いに保育や教育の目標・行事予定・お便り等を交換する。</p> 	<p>③ 園児と児童による交流活動を行う。</p>  <p>④ 保育者と小学校の先生は、互いに保育と授業を参観し、協議会※2等において意見交換し、学んだことを生かして指導や支援について工夫・改善する。</p> <p>⑤ 小学校区で取り組んでいる幼保小連携に関する連絡会議※3や研修会に参加する。</p>	<p>⑥ 小学校と小学校区内の園等で子どもの実態に即して接続に向けて共同して取り組むテーマなどを明確にする。</p> <p>⑦ 接続に向けた目標やテーマに沿って必要なことをカリキュラムに反映する。</p> <p>⑧ 資質・能力の接続を目指してカリキュラムに沿った取組を行う。</p> 

- ※1 小学校区によって園児数や対象となる園の数などの状況が異なります。ここで示す基本的な連携についての3つのステップは、すべての園等に相応するものではありませんので無理のない連携の工夫をしましょう。
- ※2 参観した保育や授業の後で保育者や小学校の先生と意見交換や協議を行う会議。
- ※3 各小学校区において校長、園長、幼保小連携の担当者、地域の方などによって行う会議。

(2) 連携するとどのようなことが期待できるの？ ～みんなの安心感につながる～



各ステップでは、このようなことが期待できるのじゃ。

【ステップ1】情報の連携で期待できること

- ・保育者は、保護者に小学校の情報を伝えることができます。
- ・小学校の先生は、幼児期の子どもの指導や支援のポイント等を知ることができます。
- ・よりよい連携のきっかけづくりができます。

【ステップ2】人の連携で期待できること

- ・園児は、児童に憧れを持ち、入学への安心感を得られます。
- ・保育者は、入学後の様子を知ることで、就学前の子どもへの保育実践力がより向上します。
- ・小学校の先生は、園での保育の様子を知ることで、入学直後の児童への関わり方を学べます。
- ・保護者は、連携に関する取組を知り安心することができます。

【ステップ3】カリキュラムの連携で期待できること

- ・小学校の先生は、具体的な園児の育ちを知ることで入学直後の児童の実態に合った指導の工夫や指導計画（スタートカリキュラム）の作成・実施ができます。
- ・園児は、卒園前から入学後を見通して過ごすことで、学校生活を安心してスタートすることができます。
- ・保護者には、園生活における体験や遊びの重要性を更に理解してもらうことができます。

情報の連携は、小学校と園が近くなくてもできそうですね。



そうですね！園の数が多くて交流活動が難しい学区でも、連携ができそうですね。



交流と言えば、人の連携ですが、園児の中には、自分が入学しない小学校と交流する子もいることもありますよね。このような場合も接続につながるのでしょうか？

もちろん！接続につながるぞ。小学校の雰囲気を知るだけでも子どもは安心感を得られるのじゃ。ただし、保育者は園児の入学する小学校の先生と情報の連携を十分することも必要じゃ。



子ども、保護者、保育者、小学校の先生のためになりますね！
なんだか気持ちが軽くなってきたわ♪



【ステップ3】までできると、幼児教育・保育と小学校教育の内容を保育者と小学校の先生が理解し合えるので、よりよい接続ができますね。



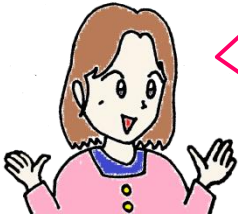
幼保小接続はリレーのバトンパスのようなものなのじゃ！リレーは、バトンを渡す者と受け取る者が、互いにスピードやタイミング等を理解し合おうとする。片方だけの思いでは、うまくバトンは渡せない。保育者も、小学校の先生も、互いの保育と教育や子どもの実態などについて理解し合い、資質・能力のバトンをつなぐことが大切じゃ。



3 実践事例

【ステップ1】情報の連携

事例① 小学校の先生と園の様子や特別な支援を要する子どものことなどについての情報交換



園では、“自分のことは自分です”とか“困っている友達がいたら助け合う”などの行動は「かっこいい」という考え方が子どもたちの中に育っています。入学後もそのような場面では、ほめたり認めたりすると子どもたちが喜び、意欲の向上になると思います。A君は、事前に次の活動を伝えることで、安心して次の行動に移ることができます。A君が見通しを持てるような支援を心がけています。

クラスの様子を事前に聞いたので、小学校でも、園で育まれた力を生かした学級づくりができそうです。子どもが、安心して過ごすためのポイントについて具体的に教えていただいたので、入学後すぐに支援を始められそうです。



♪実践者の声♪

小学校の先生と情報を交換するだけでも、連携のきっかけとなり、子どもが小学校入学後に安心して過ごすための取組になりました。小学校の先生に「小さなことでもよいので、いつでも聞いてください。」とお伝えしたところ、その後の連携につながりました。

事例② 園行事と学校行事、園だよりと学校だより等の情報交換



毎月、小学校と園のお便りを交換しています。小学校の行事日程や取組についての情報が得られたため、園児が参加できそうな行事について相談をさせていただきました。

先日、隣接する小学校の運動会の練習の様子を園庭から見て、子どもたちが「近くで見てみたい！」と言うので、練習日程を確認して小学校の教頭先生にお願いし、1年生のかけっこの練習を応援に行きました。これがきっかけになり、次の交流につながりました。

小学校の運動会の日程を、園に伝えていたことで、1年生のかけっこの練習に園児が応援に来てくれました。1年生の児童は、応援があることで、より一層練習を頑張っていました。

また、児童は自分たちより年齢が1つ小さい園児に応援してもらうことで、上級生としての自信にもつながりました。



♪実践者の声♪



便りを交換するだけでも、小学校がどのような取組をするのかが分かりました。園児は、小学校児童がどのようなことをやっているのか興味津々です。かけっこを応援しに行った後は、園でかけっこ遊びが大流行しました。1年生になることへの憧れが生まれたようでした。

【ステップ2】人の連携

事例③ 園児と児童の交流活動



園児と児童が同じ活動をして、保育者と小学校の先生では、子どもの姿や活動内容の捉え方などの違いがありましたね。

トイレに行くタイミングなどの細かい部分から、活動のねらいや評価の方法など、違いがあることをお互いが分かってよかったです。



♪実践者の声♪

1年生の図画工作の学習と合わせて、園児と児童が「砂遊び」を通して交流活動をしました。活動を通して児童と園児はすぐに仲良くなりました。1年生は園児のことを気遣って優しい言葉をかけ、園児は1年生の発想や行動を見て真似をしていました。この活動を小学校の先生と一緒に振り返り、話しをする中で、同じ活動をしていても、保育者と小学校の先生では、活動内容の捉え方が異なることが分かり、互いの保育と教育を理解するきっかけができました。



事例④ 保育と授業を相互に参観

授業や保育を参観し合った後、協議をすることで、指導や支援をしている理由やその内容についてお互いに理解できるようになりました。



♪実践者の声♪



保育でリズム遊びをしているところを小学校の先生に参観してもらいました。その後の協議の中で小学校の先生に、子どもたちが遊びの中でいろいろな育ちをしていることを伝えました。これにより、遊びの中に学びがあることを小学校の先生に理解してもらうことができました。

他の日に1年生の授業の様子を参観させてもらいました。授業内容は、体育の「表現遊び」でした。児童が自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりしながら考えて、“めあて”に向かって学習する様子を見ることで、保育と学校教育の違いやつながりを感じることができました。

事例⑤ 幼保小連絡会議



この会議が充実してきたので、連携がより深まりましたね。

そうですね！子どもも、私たちも、安心して連携ができるようになりましたね。



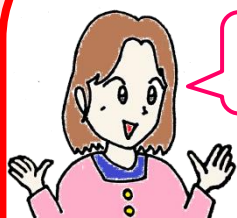
♪実践者の声♪



幼稚園・保育園の園長先生、小学校の校長先生、幼保小連携担当の保育者と先生が、行事や交流活動についての打ち合わせを行いました。子どもに必要な力をどのような取組により育てるのかということについて話し合い、共通の目標を持って、子どもの実態や地域の実情に応じた取組を進めることができました。

【ステップ3】カリキュラムの連携

事例⑥ 接続のテーマの明確化



小学校の先生と一緒に子どもを理解することで、実情に合った協議ができるようになり、接続に向けたテーマが明確になりました。

園の先生と同じような視点で、子どもに接することができるようになりました。そのことが子どもたちの安心につながりました。



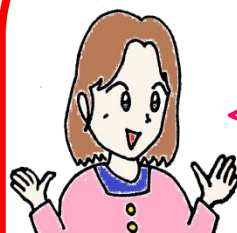
♪実践者の声♪



小学校と連携をする中で、学区の小学校と幼稚園・保育園が共通のテーマを持ちながら、取組を進めることになりました。私の園がある学区では、子どもの実態や地域の実情を考えて、「人権・言葉・発達を大切にした接続」をテーマに取組を進めました。

このように、テーマが決まると、連携に関する取組の視点がより明確になり、会議などでもテーマに沿って協議が進めやすくなりました。

事例⑦ 小学校が作成する接続カリキュラム



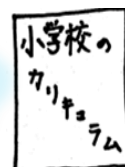
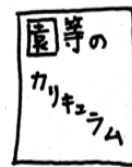
園児と児童の実態に合った取組ができるから、接続に向けて今の子どもたちに何が必要なのかを整理することができました。

子どもたちが、園の生活において、どの時期にどのような力を付けるのかということ、私たち教員も理解しながら作成できたことがとてもよかったです。



♪実践者の声♪

小学校が作成する「幼保小接続カリキュラム」は、年長児と1年生が接続に向けて1年間でどのような取組をするのかを、子どもの様子や育てたい力などを考慮して整理するカリキュラムです。このカリキュラムを小学校の先生と一緒に考えることで、年間の行事計画やその取組によって、園等で育まれている子どもの力と小学校教育により育成される力のつながりをより明確にすることができました。



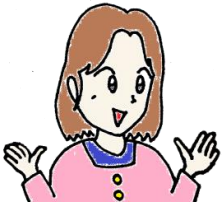
ほっほっほ！

【ステップ3】くらいまでの連携ができるようになると、園児も、園の先生も、小学校の先生も、保護者もみんなが安心できるじゃろうな♪

はい、園でも、小学校の入学に向けて楽しく保育実践できるようになりました。



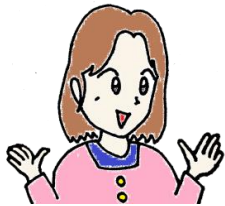
事例⑧ カリキュラムを生かした連携



入学に向けて、年長の子もたちに“時間を意識して行動すること”、“みんなで同じ目標に向かって取り組むこと”、“先生の支援が無くてもみんなで考えて解決すること”などの力を育みたいので、交流活動を活用することにしました。

カリキュラム作成の時に、連携のテーマや育みたい力を事前に共有していたので、すぐに、交流活動を活用したアイデアが浮かびました。そこで、1年生が学校のチャイムを聞いて行動している姿を園児に見せることにしました。

それは、面白いことになりそうじゃのう。その後どうしたのじゃ？



交流活動の日は、小学校の休憩時間に園児と1年生の教室へ行きました。これは、教室の外にいる1年生が、チャイムを聞いて教室に帰る姿を園児に見せるためでした。

そのような1年生の様子を見た後の園児に「1年生ってかっこいいでしょう！先生が何も言わなくても、自分たちで考えて勉強の時間や休憩の時間、給食の時間の準備もできるんだよ。」って伝えました。園児には憧れを、1年生には自信を持たせることのできる場面を作ろうと考えました。



ほお！面白い連携じゃ！その後、子どもたちの様子は怎么样了のじゃ？



交流活動後、園に戻ってからは、“チャイムを守ろうごっこ”が始まりました。子どもたちは、楽しみながら「キーンコーンコーンコーン♪」と声を出して、弁当の準備、帰りの支度、集まりの時間など、私が何も言わなくてもみんなで協力して動き、1日の生活場面の変わり目ごとに、自分たちで準備や片付けをする姿が見られるようになりました。

子どもたちが、時間を意識すること、みんなで協力すること、園の先生の指示や誘導の声掛けが無くても自分たちで考えて行動することなど、楽しみながら行っているところがよいのう。このような姿は、小学校入学後の生活にも生きることは言うまでもないが、園の先生と小学校の先生が、よく連携して互いの保育や教育を理解し、接続のテーマを明確にし、年間を通して子どもにどのような力を付けるのかを共有しているからできるのじゃ！

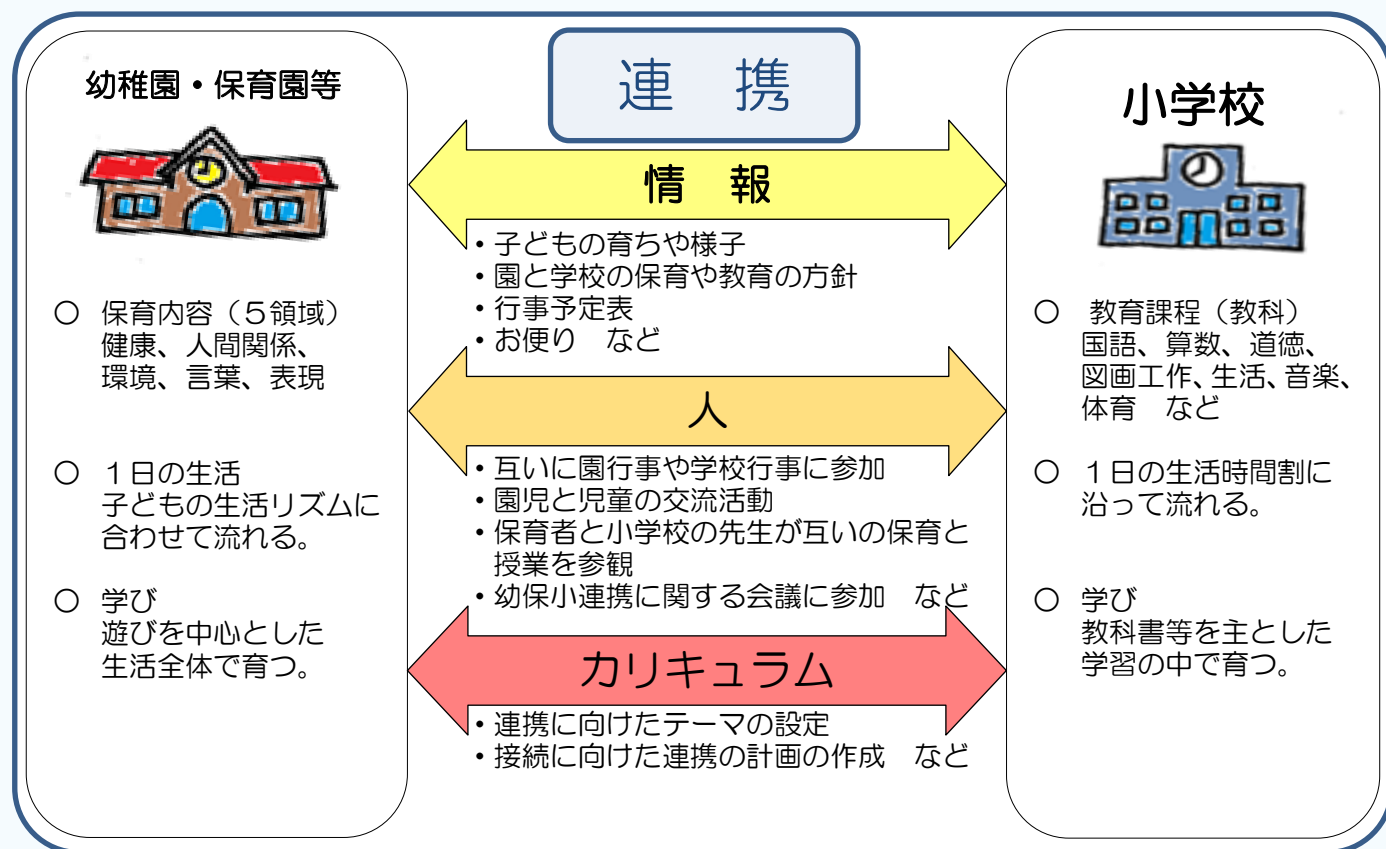
これもほんの一例じゃったが、このようなことができるようになると、他のことにも広く応用できるようになりそうじゃのお～。



クラスの雰囲気や子ども一人一人の育ちなど、実情は毎年変わるけれど、連携をしていると、子どもたちの資質・能力の接続だけでなく、実情に応じた課題の解決につながることもとてもよかったです。【ステップ1】から【ステップ3】までの連携にしっかり取り組むことの大切さがわかりました。



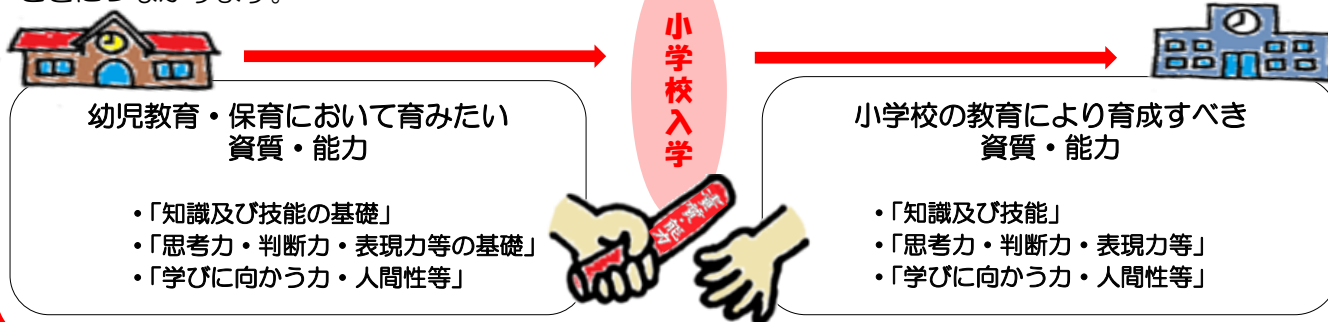
4 幼保小接続のイメージ



接続

幼児教育・保育において育みたい資質・能力と小学校以降の教育により育成すべき資質・能力が円滑につながることを幼保小接続です。

幼保小接続が円滑にできると、小学校入学以降に、子どもが主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことにつながります。



幼保小接続に関する相談などがあれば、「乳幼児教育保育支援センター」へ連絡してください。よい接続ができることを願っておりますぞ！

「広島市乳幼児教育保育支援センター」へのお問合せ先は、こちらです。
 所在地：広島市中区国泰寺町一丁目4番21号（広島市教育委員会事務局内）
 E-mail：nyuyouji@city.hiroshima.lg.jp
 TEL：082-504-2833 FAX：082-504-2509

